

# 輸送路における放射線量率の測定

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



# 輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの [台]※1	(参考) 当該地点の空間線量率 [ $\mu$ Sv/h]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [ $\mu$ Sv/h] ※2	線量率の増加が観測された時間 (累積) [分] ※2	追加被ばく線量 (累積) [ $\mu$ Sv]
①知命寺	19,512	421	0.11	0.05	74	0.03
②高瀬	22,375	2,066	0.14	0.16	601	0.3
③国道288	7,839	246	0.15	0.15	54	0.05
④常磐富岡IC	13,178	77	0.47	0.04	14	0.006
⑤南相馬IC	48,741	5,519	0.11	0.30	1,148	0.9
⑥浪江IC	13,094	2,958	0.29	0.39	942	1.0
⑦大熊IC	189,526	39	0.36	0.19	3.0	0.002
⑧常磐双葉IC	111,350	548	1.01	0.09	63	0.03

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

## 輸送路における放射線量率の測定結果(2020年4月～2021年3月)

### <評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。